

令和3年度 北多摩西部地域保健医療協議会 会議録

1 開催方法

書面開催

※ 令和3年9月30日付事務連絡により委員あてに資料を送付し、10月22日（金）までに意見回答書により意見をいただいた。

2 会議次第

(1) 審議事項

ア 北多摩西部地域保健医療協議会会長の選任について

イ 北多摩西部地域保健医療協議会各部会委員案について

ウ 「北多摩西部保健医療圏地域保健医療推進プラン」（平成30年度から平成35年度まで）の中間評価について

(2) 報告事項・情報提供

ア 課題別地域保健医療推進プラン報告

イ 新型コロナウイルス感染症の状況について

3 委員名簿 36名

(敬称略)

独立行政法人国立病院機構災害医療センター副院長	伊藤 豊
国家公務員共済組合連合会立川病院院長	片井 均
一般社団法人立川市医師会会長	村上 幸人
公益社団法人昭島市医師会会長	竹口 甲二
一般社団法人国分寺市医師会会長	高木 智匡
一般社団法人国立市医師会会長	春日井啓悦
公益社団法人東大和市医師会副会長	辻 亮作
一般社団法人武蔵村山市医師会会長	半田 宏一
一般社団法人東京都昭島市歯科医師会会長	寺村 豊通
一般社団法人国立市歯科医師会会長	北野 智丸
一般社団法人東京都武蔵村山市歯科医師会会長	小山 亨
公益社団法人東京都薬剤師会相談役	上村 直樹
東京消防庁立川消防署長	佐藤 芳邦
警視庁立川警察署長	佐川 徹也

東京都立川食品衛生協会会長	岡部直士
立川環境衛生協会会長	佐伯雅斗
東京都多摩教育事務所指導課統括指導主事	美越英宣
社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会会長	高相健一
国立市民生委員・児童委員協議会代表会長	藤沢行男
立川精神障害者家族会(立川麦の会)会長	眞壁博美
立川労働基準監督署署長	田中宏治
東京都商工会連合会地域振興課長	村野哲也
公募委員	外池武嗣
公募委員	猪爪恵美子
公募委員	山本則文
東京聖栄大学健康栄養学部管理栄養学科特任教授	倉橋俊至
国立大学法人お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系教授	赤松利恵
文京学院大学保健医療技術学部看護学科教授	米澤純子
医療法人社団東京愛成会高月病院理事長	長瀬輝諠
立川市福祉保健部保健医療担当部長	吉田正子
昭島市保健福祉部長	青柳裕二
国分寺市健康部長	鈴木佳代
国立市健康福祉部長	大川潤一
東大和市福祉部長	川口荘一
武蔵村山市健康福祉部長	島田拓
東京都多摩立川保健所長	渡部裕之

4 審議事項について

北多摩西部地域保健医療協議会会長の選任について

全会一致により、立川市医師会長 村上 幸人 氏が選任されました。

なお、副会長については、会長が選任することとなっております。別途お知らせいたします。

北多摩西部地域保健医療協議会各部会委員案について

村上会長より、事務局案のとおり指名いたします。

「北多摩西部保健医療圏地域保健医療推進プラン」(平成30年度から平成35年度まで)の中間評価の実施について

全会一致により、了承されました。

なお、いただいた主なご意見については以下のとおりです。

- 全般的によく工夫して実施し、効果をあげていると思います。特に地域ケア、フレイル関連事業は、充実していると思います。がん検診、精密検査関連事業は今後の課題だと思います。コロナ禍の影響と生活スタイルの変化も予想され、柔軟な影響評価を考えても良いと思います。
- 案については同意いたしますが、中間評価の前提となる実績(年度)は令和元年度など、新型コロナウイルス感染症が流行し、対応する以前のものと思われます。その評価をもって現時点でも同じ状況(達成度)との認識でよろしいのでしょうか。それともコロナウイルスの影響で、その後の達成度や進捗は改めて考えないといけないということになるのでしょうか。
- 同意ですが、気になった点を以下に記すので、次回の目標設定や評価の際に、参考にしていただけると幸いです。
 - (1) 目標(指標の方向)が「あげる」「増やす」といった言葉のみで、値がない。
数値目標がないため、中間評価値が「順調」なのか「遅れている」のかの評価が主観的になっていると感じました。数値目標がないと、評価もしにくいと思います。
 - (2) 指標の方向が「増やす」にも関わらず、ベースライン値より値が下がっているのに、評価が「ほぼ順調」は矛盾を感じる。
各指標の説明を読めば、言いたいことはわかるのですが、普通に、総括表をみて、「増やす」となっているのに、値が下がっていて「ほぼ順調」は、疑問に思います。これは、指標の方向の設定が誤っているためだと思います。例えば、指標④で、ゲートキーパー数が300人に達していたら、良しとするのであれば、指標の方向を「増やす」ではなく、「300人に達すること」とするべきだったと思います。指標⑩も同じような状況にあり、総括表をみる限り、矛盾が生じています。
 - (3) 指標の方向が抽象的

いくつかの指標の方向が「充実させる」となっています。何を持って、「充実した」と評価するのかを明示する必要があると思いました。

(4) アウトカムの指標が少ない

指標⑨や指標⑫は、地域住民の健康課題を評価する指標となっていますが、その他多くは、実施者側の評価になっています。地域住民の健康課題や生活習慣の改善の指標と実施者側の指標を区別・整理し、地域住民の改善の指標を増やす必要があると感じました。

➡【保健所コメント】

今回の中間評価は、当初の予定どおり、主に令和元年度の実績値に基づいて、実施したものです。令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症の影響による各指標の達成度は、最終評価において判断してまいります。また、いただいたご意見を参考に、次期プラン作成に向け検討してまいります。

○ <がん検診>について

保健医療体制の推進（重点プラン5 指標⑥、⑦）の評価に関し要望です。特に集合して実施し比率を算出するような事業の場合、新型コロナウイルス感染症対応による影響により、評価対象となる評価値は、今後、指標となる数値は低下すると予想されます。

むしろ人が集まらない方が望ましいとも考えられるので、今後、どういう姿勢及至考え方で評価に臨むべきか極めて悩ましい問題となる。この点について、貴所ないし都の方針なり考え方、あるいは、専門家の見解などありましたら、案内・教示して欲しい。

➡【保健所コメント】

コロナ禍においてもがん検診は定期的を受診することが重要なことから、検診の重要性の普及啓発のほか、検診会場での感染症対策の徹底等、各市と連携し進めてまいります。

○ <自殺総合対策>について

各市で、「自殺対策計画」が策定されるのは結構なことですが、計画後、それをどのように実施、評価していくべきか今後の課題です。各市には、従来の地域福祉計画、健康増進計画等のようなノウハウは蓄積されていないようなので、各市との連携ないしきめ細かい指導をお願いしたい。

また、自殺問題の背後に「ひきこもり問題」が関連していると思われます。ひきこもりは、心の健康づくり対策上、大きな問題であり、自殺の誘因の一つにもなる。自殺対策計画を実効あらしめるためにも、各市と連携し、実態を把握するとともに、対策強化をお願いします。

➡【保健所コメント】

管内6市と保健所が、担当者連絡会や研修の実施等を通じて、情報共有や連携に努めてまいります。

5 報告事項・情報提供事項について

課題別地域保健医療推進プラン「多摩立川保健所たばこ対策キャラクター「禁煙きんちゃん」を活用した普及啓発の推進」

- たばこ（喫煙・受動喫煙）対策、COPDに対する取り組みを大いに評価致します。しかし、管内の飲食店を対象としたアンケートの提出率が低いこと、育児期間中の喫煙率は下がっているものの、父親の喫煙率（1歳6か月児を持つ父親の3～4人に1人は喫煙）を考慮すると、達成度の評価のハードルをもう少し高くし「順調」ではなく「ほぼ順調」とすべきではないかと思いました。
- 受動喫煙防止のアンケートは回収率16.6% 有効回答数556件とすれば13.4%となっています。回答率が低いのは理由があるのか？適切な評価ができるか？
- 新型コロナ禍の中で、イベントが中止になり、普及啓発に苦労されたことがよくわかります。そんな中でも、シティビジョンを活用されたり、様々な工夫をされていること頭が下がります。認知度調査（アンケート調査）は、皆さんへの啓発の意味もあり、大変良い取り組みと思うのですが、回収率が極めて低く（16.6%）なっていました。回答を郵送、FAX、持参してもらおうとなっていますが、すべてのアンケート用紙に郵送用の封筒（自己負担なし）をつけていたのでしょうか？それがついていても、この回収率だとしたら、コロナでの経営の難しさで精神的なゆとりがなかったのかもしれないですね。
- 受動喫煙防止事業での普及啓発グッズなどはあまり新鮮さや奇抜さがなく、また、ジャンパーも明るい色彩と大きな字体が目立つものが良かったと思います。そういった意味ではアピール度が弱く、他市、他県から来られる方々にとっては、特に残念ながらPR不足は否めなかったと思います。でも、実施されたことについては評価したいと思います。
- 「禁煙きんちゃん」について、令和2年度から普及啓発活動とあるが、立川・国分寺駅周辺にて見た事がない気がします。
- 立川市と同様に各市でも、歩行禁煙の条例を設けるように保健所で働きかけをして欲しい。
- 禁煙についても薬育についても、地道に普及活動を行うことが大切だと思いますので、引き続きご尽力されて下さい。

➡【保健所コメント】

管内の全飲食店に対する任意回答のアンケートのため、回答率が低くなっておりませんが、500件を超える回答をいただきましたので、その内容を踏まえながら、飲食店の積極的な協力が得られるよう、今後も管内6市と連携し、普及啓発に努めてまいります。

また、コロナ禍の影響で、イベント・キャンペーンの実施が中止となりましたが、街頭ビジョンの活用や飲食店等への訪問等を通じて、普及啓発を進めていきます。

課題別地域保健医療推進プラン「地域における薬育活動の普及推進事業」

- 薬育活動については、とても大切なことだと思います。しかし、「薬育」という言葉が分かりにくく、例えば「薬育 始めてみませんか？」というタイトルから正直、何を意図としているのかと少し考え

てしまいました。「薬育」に対する私の第一印象は覚醒剤、抗精神薬等の違法薬物でしたが、この点についてご配慮して戴ければ幸いと存じます。

- WEB 研修会やその記録した動画の配信など、今後も検討してほしい。
- 今後もひき続き推進して頂きたい。とても大切な活動だと感じます。
- 禁煙についても薬育についても、地道に普及活動を行うことが大切だと思いますので、引き続きご尽力されて下さい。

➡【保健所コメント】

今後、動画を活用した普及啓発等、様々な手段や機会の活用を予定しています。

また、いただいたご意見を参考に、今後も関連団体等と連携・協力しながら、一層の推進を図ってまいります。

新型コロナウイルス感染症の状況について

- 管内6市のワクチン接種率もかなり高まっており、今後は流行も落ち着いていくと思われませんが、変異株の出現等も予想されることから、引き続き十分な対策を継続する必要があると考える。
そのためには、適時適切な情報収集と情報提供と予防措置が重要であるが、無理なく継続できるような体制整備、特に人材面と経済面での支援策が重要となると考える。
- 改めて第5波の猛威を思い起こすと、消防署の救急隊もかつて経験したことのない長時間に及ぶ病院選定、救急活動を強いられるとともに、傷病者が搬送を希望するのに医療機関へ搬送できないという強いジレンマを抱えておりました。
現在は、当時に比べれば落ち着いた状況になっておりますが、第6波について各方面で予想されており、その際は、消防署として関係機関等と一層緊密な関係のうえ、しっかり対応していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。
- 保健所、行政、医師会で第6波に向けた対応を考えておかないと、又同じことの繰り返しになります。
- 第5波の際に設置された「酸素・医療提供ステーション」「TOKYO 入院待機ステーション」は患者数が減少した際には縮小（或いは閉鎖）するのか？その場合には、出務予定者には早めに連絡を希望する。
- 6市のワクチン接種状況を拝見いたしますと、とても順調と思われませんが、できましたら東京都全体の接種率を掲示して戴き、比較できれば幸いと感じました。
- 接種の時期、連携システムの在り方、住民側（市民）のとらえ方など整理し、会議の機会を設けて反省と将来への課題としたいものです。

- 新型コロナワクチンも接種が進んでいる状況も、コロナ終息につながることを期待したいです。
- 第6波の備えとして、保健所と市の連携協力を検討するにあたり、第5波における保健所の取組について、可能な範囲で具体的内容をご報告いただきたいと存じます。

➡【保健所コメント】

第6波に備え、所内体制の整備を進めるとともに、関係機関との連携を強化してまいります。今後ともご協力をお願いいたします。